

連続講座「憲法を学ぶ会」第一回開催報告

成城・祖師谷九条の会

2015.4.29

■開催の概要

日時 2015年4月18日（土）13:30-16:00

場所 成城ホール4E集会室

講師 慈恵会医科大学教授 小沢隆一先生

参加者 40名

配布資料

- ・第1回「日本国憲法ができるまで」レジュメ
- ・「はじめて学ぶ日本国憲法」（小沢隆一著）第3章
- ・憲法研究会関連資料

■概要

[1] 小沢先生の講演（前半）

はじめに、「戦争体験を交流したりして、20世紀がどういう時代だったのか、どういう過程を経て憲法ができたか、を考える」との発言があり、

レジュメの第1項「20世紀の所産としての日本国憲法」にもとづいて、

2つの世界大戦とその結果としての平和の国際秩序／平和憲法の必然性をテーマとして、

- ・第一次大戦では、スペイン風邪の由来、戦争と細菌研究、大戦後のドイツ状況など
- ・第二次大戦では二度と戦争をしない仕組みとしての国際連合の集団安全保障や、集団的自衛権の考え方などのお話があった。

[2] 戦争体験者からの発言／質疑

9名の方から直接（自身の体験）／間接（親からの戦争体験継承等）が語られた。

発言に関連して、「20世紀とはどんな時代だったのか？」は、正確には20世紀前半はふたつの大戦から死／悪が根本問題として問われた時代であり、20世紀後半は不戦の理念破壊との戦いの時代であった、と特徴づけることができると、小沢先生からの補足があった。

[3] 小沢先生の講演（後半）

レジュメの第2項「日本国憲法は押しつけられた」のか？にもとづいて、小沢先生が講演された。

- ・個々の局面だけ見れば、一部に「押しつけ」的側面は確かにあるが、木を見て森を見ない、全体でみるとそれは間違いである。
- ・原点はポツダム宣言の受諾にある。「押しつけ憲法」論者はこれを見ようとしない。
- ・松本案（憲法問題調査委員会委員長、国務大臣）は、明治憲法の焼き直しが殆どであり、「天皇は神聖にして侵すべからず」を「天皇は至尊にして侵すべからず」と天皇の不可侵性の理由を改めるにとどまり、ポツダム宣言に答えていない。GHQに拒否されている。
- ・日本政府は、ポツダム宣言に答えた憲法をつくれなかった。
- ・GHQは、鈴木安蔵を中心とした憲法調査会の活動を知っていて草案を参考にしている。
- ・憲法24条（男女平等）25条（生存権）等に、鈴木安蔵、ベアテシロタ等の先駆的役割が反映されている
- ・「未完の市民革命」（杉原泰雄）「世代を超えた共同作業」（奥平康弘）という言葉に象徴されるように、憲法と国民の関係は制定当時の関係だけで決まるものではない、という視点も重要である

以上